

プレス工業株式会社 尾道工場 温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

プレス工業株式会社 尾道工場

(2) 事業所の所在地

広島県尾道市高須町 大山田 1050番地

(3) 業種

輸送用機械器具製造業(206)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成24年度を基準年度とし、平成28年度から平成32年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

<環境方針>

(1)当工場の完成車組立、自動車部品及び組立品、建設用車両部品及び組立品の設計・開発及び製造、サービスが環境に与える影響を把握し、環境汚染を未然に防止すると共に環境保全活動のシステムと環境パフォーマンスの継続的な向上を図る。

(2)環境活動の推進にあたり、技術的、経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、年1回の見直しを図ると共に、継続的な改善と汚染予防に努める。

(3)環境に関する法令・条例・協定を順守する。

特に水質汚染に関する瀬戸内海環境保全特別措置法を順守する。

(4)廃棄物の削減と資源のリサイクルの推進にあたり、設計、生産の各段階において、環境保全に配慮した環境技術の開発を進め、リサイクルを考慮した設計開発、積極的な省資源・省エネルギー、再利用努める。

(5)関係官庁、地域住民とのコミュニケーションを図ると共に、地域社会に対し環境課連技術、情報を広く提供する。

(6)この環境方針は、各部署に掲示し、当工場の敷地内で当工場の為に働く全従業員に周知徹底すると共に、環境への取り組みを一般の人にも適切に情報開示し、社会とのコミュニケーションに努める。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成24年度	平成27年度
二酸化炭素		10,224	8,837

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度	直近年度
		平成 年度	平成 年度
メタン			
一酸化二窒素			
HFC PFC SF6			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				0
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
フロン類				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

付加価値(百万円)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成24年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成32年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	10,224	7,212	1.42	4.9	7,460	5,525	1.35
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.53	5.0	-	-	0.50
目標設定の考え方	エネルギー起源CO2排出量は、対基準年度1.0%以上削減。 電力量に対する排出係数は中国電力(株)の実排出係数を用いる。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減。	LPG使用量を、付加価値比あたり、1%以上削減。	<ul style="list-style-type: none"> ・熱漏洩防止。（保温・断熱） ・低温排熱回収。 ・季節毎の設備稼働時間の適正化。
2	電力量の削減。	電力使用量を、付加価値比あたり、1%以上削減。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアー圧力管理値見直し。 ・塗料循環ポンプの高効率化。 ・老朽照明のLEDまたは高効率化。
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合 計 量
1		
2		
3		

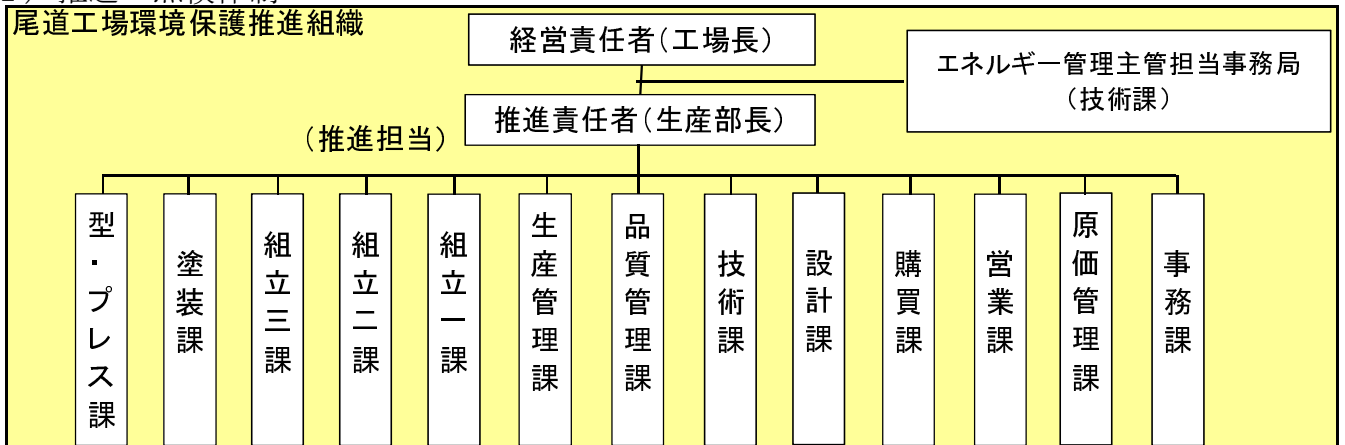
○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量を付加価値比あたり、1%以上削減。	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料の節約（設計・加工） ・消耗品の寿命延命化 ・廃油排出量の削減（リサイクル化）
2	環境負荷物質低減	環境負荷物質を付加価値比あたり、5%以上削減。	<ul style="list-style-type: none"> ・塗料色替え回数削減。 ・塗料吐出量の適正化。 ・洗浄ホース長さ短縮化。
3	排水有害物質	排水有害物質含有量規制値遵守。	<ul style="list-style-type: none"> ・COD負荷量規制値遵守。 ・全室素負荷量規制値遵守。 ・全リン負荷量規制値遵守。

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

ISO14001環境マネジメントシステムに基づき四半期/回、社内環境委員会で、計画・進捗状況・改善効果について報告、評価し、未達の場合は可能な限り挽回アイテムの検討を行う。

(3) 計画書等の公表

ISO14001環境マネジメントシステムに基づき公表。